

第2学年総合カリキュラム 志賀高原移動教室～総合学習としての取り組み～

1. はじめに

平成14年度から新教育課程の実施に伴う完全学校週5日制がスタートする。どの学校でも授業日数の削減にともない、学校行事を見直し、精選せざるを得なくなっているのが現状である。そんな中本校でも、以前から様々な学校行事の見直しが行われてきた。しかしながら、現在1学期に集中して行われている修学旅行（5月）体育大会（6月）志賀高原移動教室（7月）を生徒の準備活動の面からも再度精選する必要に迫られた。結果として、在学中に二回行っていた宿泊行事を一回にすることが決まった。3年生で行っていた修学旅行の要素と、2年生で行う移動教室の要素を整理し、本校にとっての宿泊行事を一本化するのである。そこで本年度最後となる志賀高原移動教室では、これまで積み上げてきた実績を踏まえつつも、来年度からの新たな宿泊行事への足がかりを作るべく、目的の設定や総務の生徒の活動内容など、ポイントを明確にした取り組みを実施した。

2. 目標の設定

まず初めに、今回の志賀高原移動教室の目標として担任団が提示した願いを5点紹介する。

- A 志賀高原の自然の中で、学校や都会では体験できないことを学んでほしい。
- B 志賀高原の自然の中で、一人一人が自然に親しみ、自然を愛する心を学んでほしい。
- C 総務や各係を中心に、一人一人が意欲的に取り組み、自分たちの力で志賀高原の移動教室を成功させる充実感をもってほしい。
- D 規律ある生活体験の中で、班活動や集団生活を通して、学年や学級の仲間との交流と連帯を深めてほしい。
- E 志賀での取り組みを通して、互いに認めあい信頼しあえる学年学級の基盤を作ってほしい。

これらは、過去数年間の志賀高原移動教室と修学旅行の目的を踏襲しながら、最後の志賀高原であるとともに、今後一回になる宿泊行事を見据えて担任団が考えた目標である。これを最初のガイダンスで生徒に提示し、共通理解をした上で、総務を中心に生徒たちとともに移動教室を作り上げていった。これらの目標を生徒たちに意識させることはもちろん、教員側にとっては来年度以降の宿泊行事の目的を探るという重要なねらいもあった。

移動教室終了後、目標の達成具合を生徒にアンケート調査したところ、次のような結果となった。

質問項目…目標は達成できましたか。

	松 件数			蘭 件数			菊 件数			梅 件数		
	はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ
A	29	2	2	32	1	0	29	4	0	30	1	0
B	17	15	1	21	12	0	21	10	2	19	9	3
C	21	10	2	23	10	0	25	8	0	24	6	1
D	22	6	4	25	8	0	29	4	0	26	4	1
E	19	12	2	18	15	0	25	8	0	16	14	1

質問項目…自分としては意識、達成できた目標を一つ選んでください。

	松	蘭	菊	梅	計
A	15	4	9	5	33
B	4	0	2	3	9
C	7	5	3	2	17
D	5	6	9	7	27
E	2	3	3	3	11

このアンケート結果から、各目標とも生徒の達成感や満足感は非常に高く、一人一人が意識を持って移動教室に参加できたことがわかる。クラスによるばらつきはあるものの、AやDの目標の達成率が高いという結果は、学習としての意識の高まりや連帯感という点で十分に成果が表れたと言える。

また、教員側としては、それぞれの目標に次のような意味づけをしていた。

A…総合的な学習の視点 B…自然愛護 C…自主自律 D…連帯感 E…学年のまとめり

これに対する教員のアンケート結果は次の通りである。

質問項目…今回の目標を踏まえ、志賀高原移動教室で生徒につけたい力とは何でしょうか。

- ・ 集団生活の中で助け合う精神。人に頼らず、自主自立の精神を養う。
- ・ 自分たちの行動を企画(計画)し、実行する力。
- ・ 自然に触れ、自然に対する興味関心を高める。
- ・ 苦しいけれど、登り切る、という忍耐とその後の感動。
- ・ 少子化の中での集団生活の意義を会得する。
- ・ 感動体験。

以上、今年度の結果から、学校内にある新教育課程委員会が、今回掲げた5点の目標を再度整理し、今後一回となる宿泊行事を実施していく目的として全教官に提示したところ、今年度の目標が了承された。そして、今後はこの5点の目標をもとにしながら、宿泊行事の時期、場所を新たに開発していくことが確認された。以下は、その整理された宿泊行事の目標である。

- ① 一人一人が自然に親しみ、自然を愛する心を学ぶ。(自然愛護)
- ② 各教科の観点から、学校内では体験できないことを学ぶ。(総合的な学習の視点)
- ③ 総務や各係を中心に、一人一人が意欲的に取り組み、自分たちの力で行事を作り上げる成就感と充実感を味わう。(自主自律)
- ④ 規律ある生活体験の中で、班活動や集団生活を通して、学年や学級の仲間との交流と連帯感を深める。(連帯感)
- ⑤ 互いに認めあい、信頼しあえる学年学級の基盤を作る。(学年のまとめ)

3. 総合学習としての取り組み

志賀高原は自然が豊かな場所であり、都内では体験できないことが体験できる場所である。本校では数年前よりこの志賀高原移動教室を「総合的な学習の場」としてとらえている。そして本年度も、目標のAとして、「各教科の観点から、学校内では体験できないことを学ぶ」という「総合的な学習の視点」を掲げた。今年度の志賀高原移動教室における各教科や事前学習の関わりは次の通りである。

国語…短歌の学習

社会…地図の読み方、段彩図による学習

数学…高度と気温の関係、鉄道と速さ

理科…志賀高原の自然

英語…英文日記の書き方

美術…自然のスケッチ

保健体育…バテない山登りについて

家庭科…志賀の食事

また、現地での活動として、各教科から次のような課題が出され、生徒は、移動教室終了後、それらの課題を各自が創意工夫した一冊の本のかたちでまとめた。

国語…短歌を5首作り、その鑑賞文を書く。

社会…地図の読み方や段彩図で学習したことを現地で生かす。

数学…授業で扱ったプリントを完成させる。(各班で一つ寒暖計を持参する)

理科…自分で課題を決めて志賀の自然を楽しみ、レポートをまとめる。

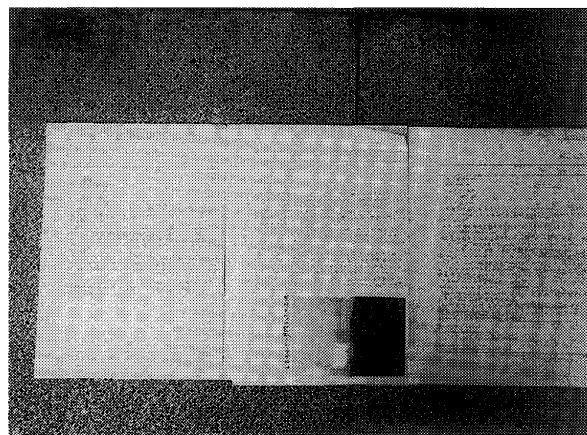
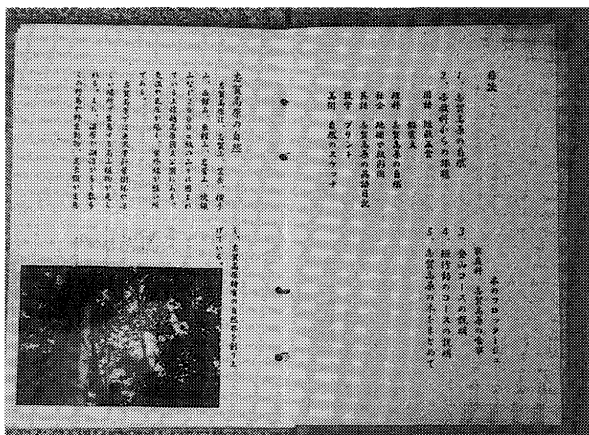
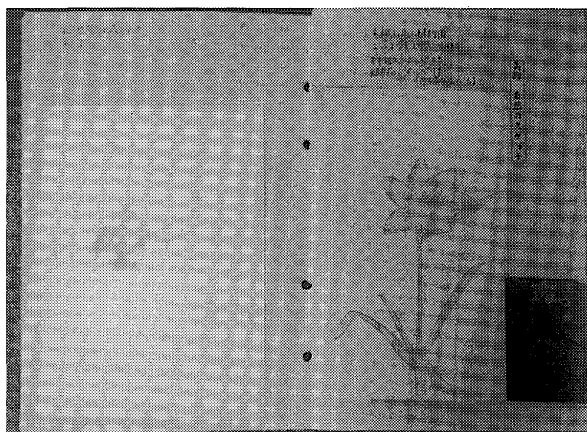
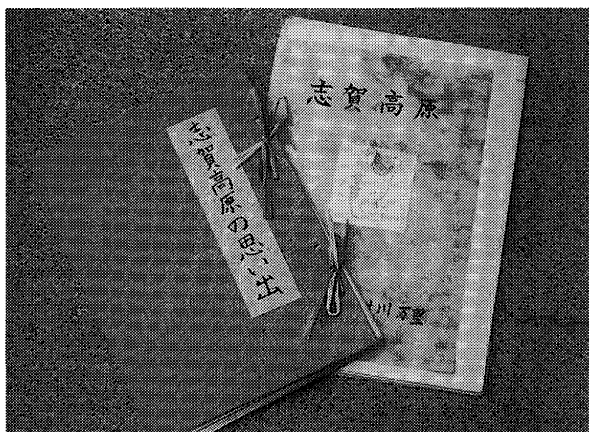
英語…一日分の出来事を英語日記にする。または、英語で家に手紙を書く。

美術…フロッターージュをして木のスケッチをする。

保健体育…「バテない山登り」方法を現地で実践する。

家庭科…バランスを考えて食事をとる。健康に四日間過ごす。

生徒たちはそれぞれの課題に意欲的に取り組み、立派な冊子を作り上げていた。その一部を写真で紹介したい。



4. 総務のかかわり

本校の学校教育目標は「自主自律の精神をもち、広い視野にたって行動する生徒」である。これは学校全体のすべてに渡って行われ、当然宿泊行事にも生かされている。それゆえに、行事の企画・実施は生徒自身が行い、教員がそれをサポートするかたちで行事を運営している。本校では生徒の代表として「総務」と呼ばれる生徒を各クラスから男女1名ずつ選出し、計8名の生徒が教員と全生徒とのパイプ役を務めながら宿泊行事を作り上げている。その事前の活動の内訳は、ルール原案を作って全生徒に下ろしたり、生徒の声を吸い上げて検討したりすることである。総務の生徒たちは休み時間や放課後を使い、毎日のように会合をもち、生徒代表としての自負を持ち、責任を十分に果たしている。また、現地でも起床や就寝の呼びかけを初め、各会合や行動でのリーダー役を務めるなど、率先した行動をとっている。そうした本年度の総務から出された生徒自らの目標は、『ベツと行動しよう』であった。何事にも率先して総務自身が動くことで、全生徒も素早く行動することを目指そうとしたのである。そして、限りある時間を有効に使い、志賀高原を思い切り楽しもうという総務全員の気持ちの象徴とも言えよう。当然のことながら、みんなで作り上げた志賀高原移動教室でのルールの遵守に向けて8名が一丸となって活動する姿は、全生徒からの信頼を勝ち得るほどである。こうした志賀高原

の総務に対して、他の生徒からは次のようなメッセージがアンケートの中に記入されていた。

質問項目…志賀高原の総務に一言

- ・規則を破ったらみんなの前で謝罪させた方がよい。
- ・志賀の体験を元に、全体で話し合っってルールを決めよう。
- ・お疲れさまでした。トランプOKにしてくれて本当にありがとう。
- ・ありがとうございました。
- ・4日間騒いだり面倒をかけたけど、楽しく過ごせました。
- ・総務のおかげで志賀が楽しくなりました。
- ・部活動も出ずにみんなのために頑張ってくれてありがとう。

今年度の志賀高原移動教室で特に評価できる点は以下の二点である。

まず一点目としては、ルールに対する違反者がとても少なかったことである。その理由を考えてみた時、総務の頑張りが全生徒に伝わったことがまず思い浮かぶ。本来教員側は学習の場であることを前提にしているため、最初の段階では例年になく厳しいルールを提示した。だが生徒は楽しみたい気持ちを多くもっているため、色々なことを自由にしたがる。そんな両者の間に立った総務は、生徒からの意見を集約し、教員側との話し合いの中で、より建設的な意見を出し合いながら、みんなにとってよりよいルールを作っていたのである。その教員側との話し合いの過程での頑張りを見ていたからこそ、参加した一人一人が意識を高くもち、ルールを遵守した行動をとることができたのだと考えている。総務の生徒たちは確かに大変ではあったが、それだけに満足感、達成感は大きなものがあつたようである。

二つ目はしおりの作成である。これまでの志賀高原移動教室では、しおり作成担当者を各班の役割の一つとして設定することが多かった。しかし今年は、総務全員が自らの意志でそのすべてを請け負った。実際の原稿の執筆、印刷、綴じに至るまで、すべて総務自身が行い、全生徒分のしおりを手作りで完成させることができた。特に綴じについては、あまりの量の多さに、教員としては全生徒に自分の分を自分で組んで綴じさせようと考えたが、総務の生徒たちから自分たちで作って自分たちの手で配りたいという要望が出されたため、そのようにした。時間と労力を惜しむことなく作り上げたしおりの総ページ数は100ページとなり、必要な情報が詰まった大作ができあがった。読み合わせはもちろん、当日も一人一人がそのしおりを大切にもち、自分の目を見て、確認して行動することができていた。こうした「総務」という本校独自のスタイルは、本校にとってまさに「自主自律の精神をもち、広い視野にたつて行動する生徒」という学校教育目標を具現化する大切な役割を担っていると見えよう。

また、今年度の場合には来年度行われる最後の修学旅行につなげるための志賀高原移動教室という意味合いもあるため、アンケート項目に次のような質問を入れた。

質問項目…修学旅行の総務に「お願い、こうして!」と思うこと。

- ・志賀より楽しくおもしろく。
- ・必要な規制ならばどんどん取り入れて、でも不必要ならば話し合っただけで削っていくこともして下さい。
- ・今回の志賀みたいであって欲しい。ちゃんと意見も出してくれたし、今度もそういう総務であって欲しい。
- ・ルールを厳しくしないで欲しい。
- ・もう少しゆっくりまったりできる時間を取って下さい。
- ・志賀の総務の人のように頑張っていて楽しくして欲しい。

今年度は、総務の生徒たちにとっても満足度の高い志賀高原移動教室を作り上げることができたが、それを修学旅行にうまくつなげてこそ初めて今回の志賀が成功であったと言えるのではないかと思う。

5. 班別行動

教員からの目標のDとして、「規律ある生活体験の中で、班活動や集団生活を通して、学年や学級の仲間との交流と連帯を深めてほしい。」という願いを掲げた。これは「連帯感」をねらった目標であるため、3日目のプログラムとして班別行動を設定した。朝9時から15時30分まで、各クラス5班(各班は男女混合で6～7人)、計20班を作り、指定されたエリア内を、路線バスやゴンドラ、リフトなどを自由に使って、班長を中心に班員全員で計画したとおりに行動するのである。これは生徒たちにとってはとても楽しい活動の一つである。それだけに、「班別行動は楽しかったですか。」という質問に対して「はい」と答えたパーセンテージは、松組76.6%、蘭組79.2%、菊組92.5%、梅組82.5%という結果となった。実際の生徒たちに人気があった活動は、池でボートに乗る、湿原を歩く、植物園を見学する、本学の施設である温泉に入る、山登りをする、オリエンテーリングをする、魚のつかみ取りをするなどである。いずれも工夫を凝らした行動が多く見られ、行動計画を立てるところから実際の現地での行動まで、協力しながら3日目の班別行動を全員で作りに上げていくことができた。生徒へのアンケートの結果による班別行動のまとめは次の通りである。

質問項目…今回の班別行動で自分の班がよかった点はどこですか。

- ・一人一人がみんなの為に頑張ってくれた。
- ・みんな元気で優しい人が多かった。
- ・みんな時間通り計画的に行動できた。
- ・ちゃんと一緒にまとまって行動できた。
- ・みんなが言うことを良く聞いてくれた。
- ・前にもまして仲良くなれた。

・事前によく話し合ったので当日スムーズだった。・不平を言わなかった。

質問項目…自分の班として次に生かすべき点はどこですか。

- ・明るく楽しく遅刻しない。
- ・話を良く聞き理解する。
- ・一人一人バラバラにならないように行動する。
- ・一人一人が行動予定をしっかりと理解し頭に入れておく。
- ・集まるときは素早く。
- ・タイミングを見て行動する。

質問項目…班長として一言。

- ・みんな良くまとまってくれてありがとう。
- ・本当に頼りなくて、うるさい班長でごめんなさい。
- ・ちゃんと集まろうよ。
- ・大冒険をしたけど、やっぱりそれを乗り切れたのはみんなが協力できたから。

施設の休館や途中で雨に降られたため予定変更を余儀なくされる部分はあったものの、ほぼ予定通りの行動をとれたことは、総務の事前のチェック、そして班長のリーダーシップや責任感はもちろん、班員一人一人が人任せではなく、自覚をもった行動ができたためだと考えている。これは、1年生の時に行った横浜と江戸東京探索という二度の総合学習での班別行動の成果でもあり、修学旅行に引き継ぐべき成果であると言える。

6. 今年度の成果

今年度の成果として、次の3点をあげたいと思う。

① 総務を中心とした自主的な活動が、学校や学年の中でのリーダー育成に役立った。

前述したように、本校の学校行事全般は生徒自らの手で企画・運営されている。これは言うまでもなく、生徒が主役なのである。これまでと同様に今回もそれが総務の頑張りというかたちで花開き、一人一人の生徒の自主的な取り組みにつながった点は大きな成果であったと言える。今年度を振り返ってみると、総務は立候補した者もいれば、クラスメートからの推薦を受け、選出された者もいた。しかしながら選出された8人は、それぞれの立場でリーダーシップを発揮し、立派に志賀高原移動教室を企画・運営してくれた。

② 班別行動における各自の責任ある行動が、学級としてのまとまりやクラスのつながりを強め、グループの輪や一人一人の主体性を高めるのに有用であった。

班別行動に対する生徒の満足度は、アンケートの結果からも例年になく非常に高いものがあった。また、来年度の修学旅行を見通しての班別行動という意味合いでも、今回の志賀高

原移動教室での班別行動は、成功であったと言える。かなり長い時間をかけて班ごとに行動計画を立て、それに基づいて班員全員が協力して現地で行動できたため、全員が大きな達成感を味わい、各班が時間通りに行動できた。この点が今回の班別行動の成功を物語っていると言える。

③ 規律ある集団生活が、個人の責任を自覚し、学年の輪を育てる基盤となった。

学校生活は言うまでもなく集団生活である。ルールを決めること、そしてみんなで決めたルールをみんなで守ることが集団生活には欠かせないことの一つである。今年度の志賀高原移動教室での違反の少なさは例年にないことであり、これは一人一人が自分の行動に責任をもち、学年の輪を自ら保とうとした結果であると受け止めている。

7. 今後の課題

今年度の成果を踏まえ、今後本校にとって一回となる宿泊行事に引き継ぎ、今までの成果を更に深めてほしいこととして以下の点を課題としてあげておきたいと思う。

① 総務を存続させること。

本校の学校教育目標である「自主自律の精神をもち、広い視野にたって行動する生徒」を育成するため、宿泊行事における総務の役割を再確認することは最も大切なことの一つである。さらに総務自身も楽しめ、満足できる宿泊行事を作り上げていくことが課題としてあげられる。

② 学校外で体験できる自然体験を充実させること。

移動教室では、東京ではできない体験活動がたくさんある。言い換えれば、学校という限られたスペースでできることにも限界がある。したがって、宿泊行事では、生徒自身が自然と触れ合える体験を取り入れ、学校外だからこそできる経験をさせたいと考える。

③ 班別行動を通して仲間とのかかわり方や責任感を学ばせること。

今年度の取り組みから、班別行動は、集団生活であることを意識させ、自覚をもった行動を身につけさせるために有効であるという結果が出た。これまでの成果を生かし、班別行動から生徒が学べることをより一層追求した班別行動の方法を探っていくことが大切である。

8. まとめにかえて

本校では来年度以降宿泊行事が3年間で一回になり、目標の設定をこれまで以上にしっかり行い、明確な目的意識をもった取り組みが求められることになる。今年で最後となる志賀高原移動教室の取り組みをもとに、今後の宿泊行事の目標設定のあり方を新教育課程委員会で練り上げ、それを全教官に提案し、一定の到達点を得ることができた。これらを来年度からの宿泊行事にどう取り入れ、それをどう具現化していくのかが、本校にとっての更なる課題になるとも言える。

(文責及び総務担当 渡辺・塩ノ谷)